

(伊良尾山遠望)

萩ジオパーク推協だより

2018年8月6日 No. 41

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510
TEL : 0838-21-7765 FAX : 0838-25-7767
e-mail : geo@cityhagi.lg.jp
HP : <http://www.cityhagi.lg.jp/site/hagigeo/>

発行 : 萩ジオパーク構想推進協議会
事務局 : 萩市ジオパーク推進課
Facebook: <https://www.facebook.com/HagiGeoProject>

萩ジオパーク現地審査が行われました 7/29(日)～8/1(水)

7月29日(日)から8月1日(水)までの間、萩ジオパーク構想の日本ジオパークネットワーク加盟認定に向けた現地審査が行われました。台風12号による予定変更も強いられましたが、無事4日間の審査を終えることができました。



- ①長門峡
- ②須佐ホルンフェルス
- ③龍が通った道
- ④笠山石切場跡
- ⑤全体ヒアリング

8月1日(水)の審査員講評では、2年前の課題はほぼ対応済みであること、観光の目線での本ジオパークの強みとして、①「食」が豊か、②拠点施設が萩・明倫学舎にあることで歴史観光の方へも広がりを持つこと、9つある道の駅を活用できることが挙げられました。2市1町での取組によりストーリー性が良くなった点やガイドも小道具などの使用でわかりやすかった点は好評で、これまでの保全活動に加え、美化活動によるジオサイトの価値を高めることや地域防災を考える機会を学校教育でも積極的に取り組んでほしいとの発言がありました。地域の皆さんの活動は質量ともに全国のジオパークに引けをとらず、教育の分野も地道な取組を継続しておられることに敬意を示されました。

そうした中、課題として、①可視化が不十分で、ジオパークであることが見えない、②2市1町全体としての取組体制が不十分、③新たなツーリズムに取り組もうとしていることは評価できるが途上である点、が挙げられました。活動に関わる人が「ジオパークとは何か、どんな活動であるか」を知っていて、みんな楽しく、真摯に取り組んでいることからジオパークとしての今後に期待する、との発言で終了しました。

【報告】山陰海岸ジオパーク視察研修

6/30 (土) ~7/1 (日)

6月30日(土)~7月1日(日)の2日間、萩ジオパーク構想関係者11名で、ユネスコ世界ジオパークである山陰海岸ジオパーク視察に伺いました。土砂降りの中、片道7時間の道のりでした。到着後は早速にジオサイトに向かいました。夏泊(なつどまり)海岸では、板状の割れ目が特徴的な安山岩露頭、それを利用した石垣等の説明を受けました。勝部(かちべ)で子守神社や大きく抉られた岩窟の話聞いた後、ここまでのガイドについて意見交換を行いました。萩の参加者からは「もっと大地と人とのつながり、ストーリーを語ってほしい」「ガイド自身ももっと楽しんでよいのでは?」など率直で鋭い指摘が多々ありました。次に鳥取砂丘へ。風紋や砂丘を維持するための保全活動等について、話がありました。こちらのガイドさんはユーモアを交えて楽しく語られ、手作りの図や模型等を用いておられ、非常に理解しやすかったです。夜に行われた交流会では美味しい食事を囲み、日頃の悩みや将来の目標、ジオパークにかける思いをとことん話すことができました。

2日目は鳥取に隣接する岩美町の「山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館」で、展示物や3D映像にそって、日本海や山陰海岸の形成、生息する生物の話を行いました。模型や映像を効果的に使用することにより地質・地形の話もイメージしやすかったです。また、リアルタイムで雲や風の動き、地震や地球温暖化の様子、世界のジオパークの映像などを映し出すデジタル地球儀もあり、みんな興味津々でした。その後は戦略顧問である柚洞先生の提案により、山陰海岸と萩でグループワークの時間。あるグループでは岩美町出身の職員さんが話すラッキョウの話について、「ラッキョウと砂地の関係って?」「家庭によって使用するラッキョウは違うの?」と盛り上がりました。何気なく話した職員さんは、「ラッキョウなんて全然珍しいものではないと思っていた。切り口によっては面白いかも!」と言われていたことが印象深かったです。ほかにも山陰海岸GPの方からは「協議会や行政内の連携不足が否めない」「ガイド養成が上手くいっていない。まずは地元ともしっかりと会話を!」といった言葉もありました。萩ジオパーク構想関係者側も他のジオパークの地質や活動等を学ぶだけでなく、グループワークや交流会で意見交換を通して、萩ジオパークを俯瞰的に捉え、魅力や個性は勿論、改善点などを改めて見つめ直す良い機会となりました。

(事務局 肌野)



(板状の安山岩を組んで造られた石垣)



(2日目のグループワークの様子)

土佐清水ジオパーク現地審査報告

萩とともに、今年度、日本ジオパークネットワーク加盟申請を行っている土佐清水ジオパーク構想の現地審査が7月11日(水)から13日(金)までの3日間実施されました。当協議会から中村事務局員が随行しましたので報告します。

3日間の行程は、快晴のもとほぼ予定どおりに進行しました。審査員からジオに関わる人に一人でも多く接したいとのリクエストもあり、多くの地域住民や関係者と面会がありました。足摺岬・竜串(たつくし)海岸のジオガイドも、この日に向けてトレーニングを積まれたようでした。写真・パネル、模型等の準備、伝えたいストーリーやテーマ設定も熟慮されていました。全体として事務局・住民・ガイド・その他関係者の熱意が感じられた審査でした。講評では、「良い報告書が書ける」と審査員全員が高い評価を示していました。



(現地審査の様子)

伊豆半島ユネスコ世界ジオパークから学んだこと 6/16 (土)

6月16日(土)、藤道萩市長(当協議会長)、横山萩市議会議員と伊豆半島ユネスコ世界ジオパークを視察。現地では、朝日専任研究員のご案内で、世界ジオパーク審査を受けた際のコースを巡りました。伊豆半島は、萩との類似点(単成火山群)もありますが、わが国地震学の発祥の地とも言われる丹那断層など、地球の動きをダイナミックに感じることができる場所でした。最初に訪問した拠点施設であるジオパークミュージアム「ジオリア」では、地形の歴史を紹介する映像コーナーや河川の仕組みを観察するコーナーなどがあり、見るだけでなく火山岩等の標本に実際に触れられるなど、誰でも優しく学べる工夫がしてありました。藤道会長、横山議長も熱心に質問・意見交換され、今後検討する萩での展示に関して大変有益なものとなりました。続いて訪れた笠山よりも若い火山「大室山」では、世界審査にも活躍された田畑さんからガイドを受けることができました。田畑さんのガイドは、単に地質の説明や実験だけでなく、地域の人々の暮らしとのつながりや、神話なども交えたもので、そのエスコートぶりも含めてとてもすばらしく、これぞ有料ガイドさんという実力を見ることとなりました。広大なエリア内の誘導サイン、ほかに訪れた各ジオサイトの説明看板など、どこを見ても得るものが多くありました。お世話いただいた、朝日さんや田畑さんからは、「まだまだ課題も多い」とのことでしたが、その課題の解決に向けた考え方も大いに参考となりました。この紙面で多くを紹介できないのは残念ですが、皆さんも是非、機会がありましたら伊豆半島に足を運んではいかがでしょうか。



(4000年前に噴火した大室山山頂で
朝日さん、田畑さんと)

見交換され、今後検討する萩での展示に関して大変有益なものとなりました。続いて訪れた笠山よりも若い火山「大室山」では、世界審査にも活躍された田畑さんからガイドを受けることができました。田畑さんのガイドは、単に地質の説明や実験だけでなく、地域の人々の暮らしとのつながりや、神話なども交えたもので、そのエスコートぶりも含めてとてもすばらしく、これぞ有料ガイドさんという実力を見ることとなりました。広大なエリア内の誘導サイン、ほかに訪れた各ジオサイトの説明看板など、どこを見ても得るものが多くありました。お世話いただいた、朝日さんや田畑さんからは、「まだまだ課題も多い」とのことでしたが、その課題の解決に向けた考え方も大いに参考となりました。この紙面で多くを紹介できないのは残念ですが、皆さんも是非、機会がありましたら伊豆半島に足を運んではいかがでしょうか。

(事務局長 中村)

萩ジオアカデミーはじまる 7/14 (土)

萩の大地の成り立ちに触れる連続講座「萩ジオアカデミー」が7月14日(土)から始まりました。初回は「南の海から来た大地」をテーマに、3億年以上前に、はるか南にあった萩の大地の“土台”、半田や蔵目喜で見られる石灰岩などについて、座学と現地見学で学びました。講師は山口大学の脇田浩二教授。ジョークを織り交ぜたお話はわかりやすく、笑いのたえない会になりました。今後も研究者を招いた講座を開講していきます。お楽しみに!

(現地での説明に聞き入る参加者の皆さん)



保全学習会 “なぜ、なんのために守る?” 7/19 (木)

7月19日(木)、文化庁記念物課の文部科学技官である柴田伊廣(しばただひろ)氏を招いて、保全学習会を開催しました。萩ジオパーク構想として“保全”を切り口にした学習会は今回が初めてです。行政関係者からジオパーク活動に取り組む地域住民の方々、そして新聞を見て知ったという一般の方まで約30人の皆さんに参加いただきました。全国各地の事例をご紹介いただきながら、保全の基本的な考え方をわかりやすく話していただきました。

20日には笠山椿群生林周辺を会場に現地見学をし、活動内容や目指す将来像が違う人たちが、互いに認識を共有し合うことの重要性を学びました。これからジオサイトを活用した活動がますます盛んになっていく中で、保全は大きな課題の一つです。今回の学習会は、その始まりの機会になったのではないのでしょうか。

阿武町でジオパーク地域会議が発足 6/28 (木)

去る6月28日(木)、阿武町で第1回目となる「萩ジオパーク構想阿武町地域会議」が開催されました。阿武町内でジオパークに関わるまたは関わりそうな方々で結成されたこの会議。シーカヤックアクティビティやレジャー船経営者、定住支援協力員、まちづくり団体、商工会、漁協、行政など多くの方々が参画しています。

当日は自己紹介から始まり、「ジオパーク」について白井専門員からの説明、そしてフリートークとして皆さんからジオパーク活動で見えてくる今後の可能性などを話しました。阿武町は人材もジオの見どころもバリエーション豊富で、いろんな体験プログラムの可能性が期待できます。地域の一人ひとりが自ら考え行動すること、そして人と人とのつながり、大地と人とのつながりを生み出す基盤として、今後この会議が大きく楽しく発展していくことを目指していきます。



(地域会議に出席された皆さん)

第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳(北海道様似町)大会 参加者募集!!

今年のJGN全国大会は北海道ブロックで開催されます。全国の仲間と一緒にジオパーク10年の歩みを振り返りつつ、これからの10年に向けて一緒に考えてみませんか。参加希望の方は、まずはご一報ください。分科会、ジオツアー等の内容をお知らせします。なお、参加登録料等に当たる部分を推進協議会から助成(上限2万円)します。参加される方は8月24日(金)までに事務局へ登録をお願いします。

○開催日時:平成30年10月6日(土)~8日(月・祝) ○会場:北海道様似町

○大会プログラム

10月6日(土)10:00~17:00 開会セレモニー(認定証授与式)・基調講演・分科会・ポスター発表、
17:30~19:30 大交流会

10月7日(日)9:30~15:00 分科会・パネルディスカッション・閉会セレモニー

10月7日(日)15:30~8日(月・祝)16:30 ポストジオツアー

(参考)本大会のみ、プレ・ポストツアーに参加しない場合(10/5~10/8の3泊4日)

推定経費合計額 170,000円

8月の予定

○萩ジオパーク構想推進協議会教育・普及部会 教員向け現地学習会 8月6日(月)9:00~12:00(小雨決行) 集合場所:萩・明倫センター 内容:教員を対象とした現地見学 主催:萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ:事務局(萩市ジオパーク推進課)(0838-21-7765)

○萩ジオアカデミー特別編(萩高校現地研修)8月8日(水)9:00~16:00 集合場所:萩・明倫センター 内容:高校生を対象とした現地での地学学習 主催:萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ:事務局(萩市ジオパーク推進課)(0838-21-7765)

●geoとも(萩ジオ友の会)定例会「須佐巡検」8月18日(土)10:00~16:00 集合場所:須佐駅 参加費:2,000円 主催:geoとも 問合せ:萩市ジオパーク推進課(0838-21-7765)

●萩ジオガイド養成講座(第1回)8月19日(日)9:30~16:00 場所:萩・明倫学舎/笠山ほか 内容:講義・現地研修 講師:菊間彰(一般社団法人をかしや代表) 参加費:無料 主催:萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ:事務局(萩市ジオパーク推進課)(0838-21-7765)

●はぎジオカフェ 8月23日(木)18:30~20:00 会場:萩元気食堂 参加費:200円(飲み物代は別途) 主催:萩ジオパーク構想推進協議会 申込み:前日までに萩市ジオパーク推進課(0838-21-7765) ※全国のジオパークからのお菓子をお取り寄せ。

●萩ジオアカデミー(第2回)8月26日(日)10:00~16:00 会場:萩・明倫学舎、笠山 内容:萩の大地の成り立ち「阿武火山群①」(講師:角縁進・佐賀大学教授) 参加費:1,000円(保険料・昼食代込) 定員:40名 申込み期限:8月6日(月)~20日(月) 主催:萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ:事務局(萩市ジオパーク推進課)(0838-21-7765)

※ ●の行事に参加される場合は、必ず、萩ジオパーク構想推進協議会事務局(0838-21-7765)までご連絡ください。